

# 加害の真実

DV更生プログラムから

—中—

## 暴力は百パーセント加害者の責任

「部下を強くしかりすぎた後、今までは言い放しだったが、意識してフォローした。職場ではできたが、家庭でやれるか不安」。40代の男性は打ち明ける。男性会社員(28)は「出張に使ったスーツケースを干しておいてくれた妻に『ありがとう』と言えた。一緒に片付けを手伝えは、もっとよかったのだけれど」と語る。

2人が参加する「DV(配偶者からの暴力)加害者更生プログラム」のグループワークで、必ず行われるのが「1週間の振り返り」。自分を見つめ直し、日常生活を通してプログラムで学んだ内容について理解を深めていくのが狙いだ。

相手の行動に焦点を当てるため、批判的・攻撃的に聞かせる

の会話や事例に当てはめながら、DVの原因の一つである「エンターバイアス(社会的・文化的な性別や偏見)」を取り除いていく。「暴力は百パーセント加害者の責任」と認識しながら「アウェア」(本部・東京)の研修を栗原理事長が1年間受講、「ファシリテーター」の資格を取得し、4月から開いている。東京のほか徳島、広島などに続き全国で6カ所目という。プログラムは週1回2時間(受講料1回3千円)、1年に及ぶ長丁場だ。

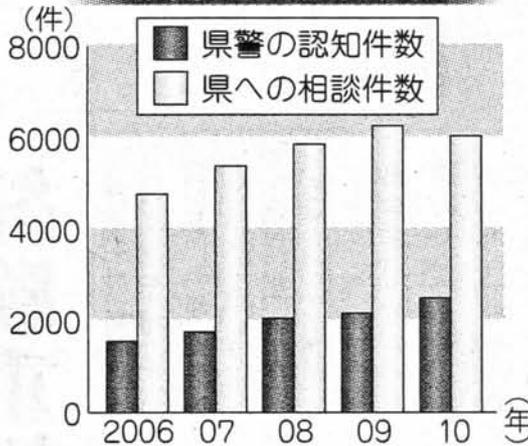
主宰するNPO法人「女性・人権支援センター ステップ」の栗原加代美理事長は、プログラムの特徴を「治療やカウンセリングではなく、教育」と説明する。

米カリフォルニア州認定のプログラムを活用。普段の夫婦間

### 変化

参加。中には大規模な社会的地位の高い職業の人もいる。県警が2010年に認知したDV事案は2505件。県配偶者暴力相談支援センターに10年度寄せられた相談は計6040件(複数回答)では、「精神的」が4403件で「身体的」の3599件を上回る。浮かび上がる加害者像は「特別暴力的なタイプではない」という半面、「被害者は日常的に加害者への恐怖心の中で生活している」。同センターは深刻さを指摘する。

県内のDV被害状況



DVは誤った価値観に根差した行為だからこそ、反復による「学び」が重要になる。

グループワークでは、「そこに気付けたのは素晴らしい」など、参加者の変化を積極的に認めるような手法を取り入れている。栗原理事長の夫でもある栗原征夫事務局長は、こう解説する。「人は、認められることで変わる。北風より、太陽ですよ」

# 反復の「学び」重要に

(佐藤 奇平)